

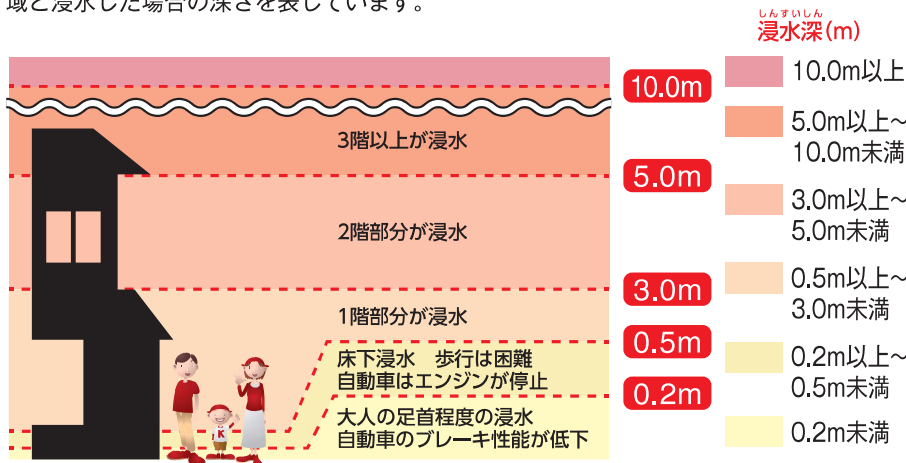
洪水ハザードマップの見方

水害から自分の命、家族を守るために！

洪水ハザードマップには、川や雨水管があふれたときに想定される浸水の区域や早期に区域外への避難が必要な区域、危険箇所などが表されています。自分の家や家の周りに危険な箇所がないか見てみましょう。

浸水が想定される区域^{※2}

須川・馬見ヶ崎川・立谷川・村山高瀬川等の洪水予報河川^{※3}・水位周知河川^{※4}や山形市内を流れる中小河川^{※5}が、想定最大規模の降雨(1,000年に1回程度発生する大雨)で洪水が発生した場合と、想定最大規模の降雨(山形市内で150mm/hr)により雨水管や側溝等が、雨水を排除できずに市街地で浸水が発生した場合に、浸水が想定される区域と浸水した場合の深さを表しています。



(注) 浸水想定区域外の人も予想外の洪水に備えて近くの避難場所を確認しておきましょう。

- ※2 浸水想定区域：洪水予報河川、水位周知河川、中小河川及び雨水管や側溝等が想定最大規模の降雨により氾濫した場合に浸水が想定される区域をいいます。
- ※3 洪水予報河川：国土交通大臣または都道府県知事が、洪水により相当な損害を生ずる恐れがあり、洪水予報を行う河川をいいます。(令和8年現在、国土交通大臣および県知事が管理する須川、国土交通大臣が管理する区間の馬見ヶ崎川が洪水予報河川に指定されています。)
- ※4 水位周知河川：洪水予報河川以外の河川で、国土交通大臣または都道府県知事が、洪水により相当な損害を生ずる恐れがあり、水位周知を行う河川をいいます。(令和8年現在、県知事が管理する区間の馬見ヶ崎川、立谷川、村山高瀬川、小鶴沢川が水位周知河川に指定されています。)
- ※5 中小河川：洪水予報河川、水位周知河川以外の都道府県知事が管理を行う河川をいいます。(立谷川、芦沢川、紅葉川、定川、横前川、村山高瀬川、野呂川、菰石川、大門川、馬見ヶ崎川、内山川、葉の木沢川、滑川、貴船川、逆川、小鶴沢川、後明沢川、藤沢川、上の沢川、南沢川、富神川、遅沢川、本沢川、花川、龍山川、坂巻川、馬立川、鳴沢川、松尾川、酢川、犬川が該当します。)

早期に区域外への避難が必要な場所

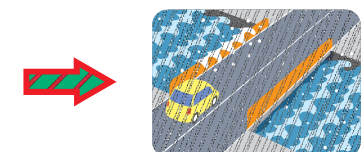
① 垂直避難が困難な区域

浸水深が3.0m以上の区域となつて、2階以上が浸水する可能性があるため、2階以上への垂直避難が難しい区域です。



② 橋を渡つての避難が必要な区域

避難には橋を渡る必要があり、激しい川の流れによって橋が壊されたり、流されたりしてしまうと避難が難しくなる区域です。



③ 河岸侵食

河岸が削られることによって家屋倒壊等の危険がある区域です。



④ 氾濫流

堤防の決壊などによって川の水が流出し、家屋倒壊などの危険がある区域です。

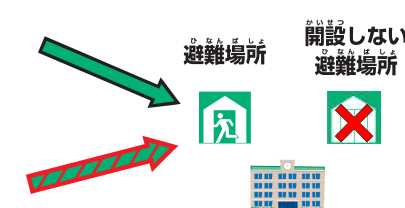


避難場所と避難方向

洪水が発生したときに、どこに避難すべきなのかを表しています。自分の家を地図で確認して、避難場所や避難経路を調べておきましょう。

また、垂直避難が困難な区域(浸水深が3.0m以上の区域)や洪水により家屋が倒壊・流出する恐れが高い区域、橋を渡つての避難が必要な区域は、早期に区域外への避難が必要です。

避難方向を矢印で示しています。赤枠の矢印は橋を渡る必要がある避難方向で、危険が多いので、早期避難が必要です。






主に、学校施設やコミュニティセンター、公民館などの公共施設が避難場所として指定されています。
赤ハツ印は、洪水時に開設しない避難場所です。

その他に注意が必要な箇所

過去に大きな浸水被害が発生した昭和42年の羽越豪雨で実際に浸水した範囲を表しています。

また、水が溜まりやすく、通行止めになる恐れがある危険箇所や、がけ崩れ・土石流・地すべりなどの土砂災害が起こる可能性がある区域を表しています。

★注意マーク1	★注意マーク2	★注意マーク3
<p>氾濫危険箇所</p>  <p>このマークで囲まれた区域は、昭和42年の羽越豪雨の時に浸水被害があった区域です。区域内の方はご注意ください。</p>	<p>危険箇所 (道路アンダーパス 地下道)</p>  <p>このマークは、大雨時に水がたまりやすく、通行止めになる恐れがある箇所を示しています。避難の際は、別の経路で避難しましょう。</p>	<p>土砂災害(特別)警戒区域</p>  <p>土砂災害特別警戒区域 土砂災害警戒区域</p> <p>このマークで囲まれた区域は、大雨時にがけ崩れや土石流、地すべりなどが発生する可能性がある危険箇所です。</p>

土砂災害とは・・・

1. 土砂災害の種類

がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が雨や雪解け水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。一瞬で崩壊します。



土石流

山腹や川底の土砂が、大量の水と一緒に一気に流れ出てくる現象です。猛スピードでやっできます。



地すべり

山地の斜面を作る岩石や土壌が大きなたまりのまま、斜面下方へ移動する現象です。広い範囲に被害が及びます。



土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または体に危害が生じるおそれのある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または体に著しい危害が生じるおそれのある区域
※土砂災害(特別)警戒区域にお住まいの方は、大雨の時には避難が必要となる可能性がありますので、ご注意ください。

出典「政府広報オンライン」

2. 区域の種類

川の水位やライブ映像を確認できる箇所

WEBサイト上で公開されている「川の防災情報」では、川の水位やライブ映像を、リアルタイムに見ることができます。

水位観測所や危機管理型水位計、河川監視カメラが設置されている位置を表しています。



河川監視カメラ



水位観測所



危機管理型水位計

「大雨時に役立つハザードマップ」

大雨の時は、洪水以外の災害も発生する恐れがあります。その他のハザードマップも確認しておきましょう。

土砂災害ハザードマップ

がけ崩れ・土石流・地すべりなどが起こる可能性がある箇所や避難所・防災行動を示したものです。洪水ハザードマップの分割図・拡大図に警戒区域を表示しています。



「土砂災害ハザードマップ」
<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kurashi/bousai/1006403/1006168.html>

ため池ハザードマップ

農業用ため池の堤体が決壊した場合を想定して、浸水区域や避難場所・避難経路を示したものです。



「ため池ハザードマップ」
<https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/kurashi/bousai/1006404/1006408/1005409.html>



様々な情報を活用
できるようにしておく
ことが大事だね!



洪水ものしりカッパ
ハザ吉

内水ハザードマップ

近年各地で多発する局所的集中豪雨(ゲリラ豪雨)等により雨水管や側溝等が、雨水を排除しきれなくなることで市街地で発生する浸水の区域や深さを想定した浸水区域を示したものです。



「内水ハザードマップ」
<https://suidou.yamagata.yamagata.jp/soshiki/11/1012676.html>



冬でも洪水が起きる!

積雪がある時期に蔵王山が噴火した場合、噴火に伴う熱で大量の雪解け水が発生し、周辺の土砂と一緒に融雪型火山泥流が、市内を流れる須川で起きる恐れがあります。 ※詳細は、蔵王山火山 融雪型火山泥流ハザードマップをご確認ください。